

平取ダム建設事業について

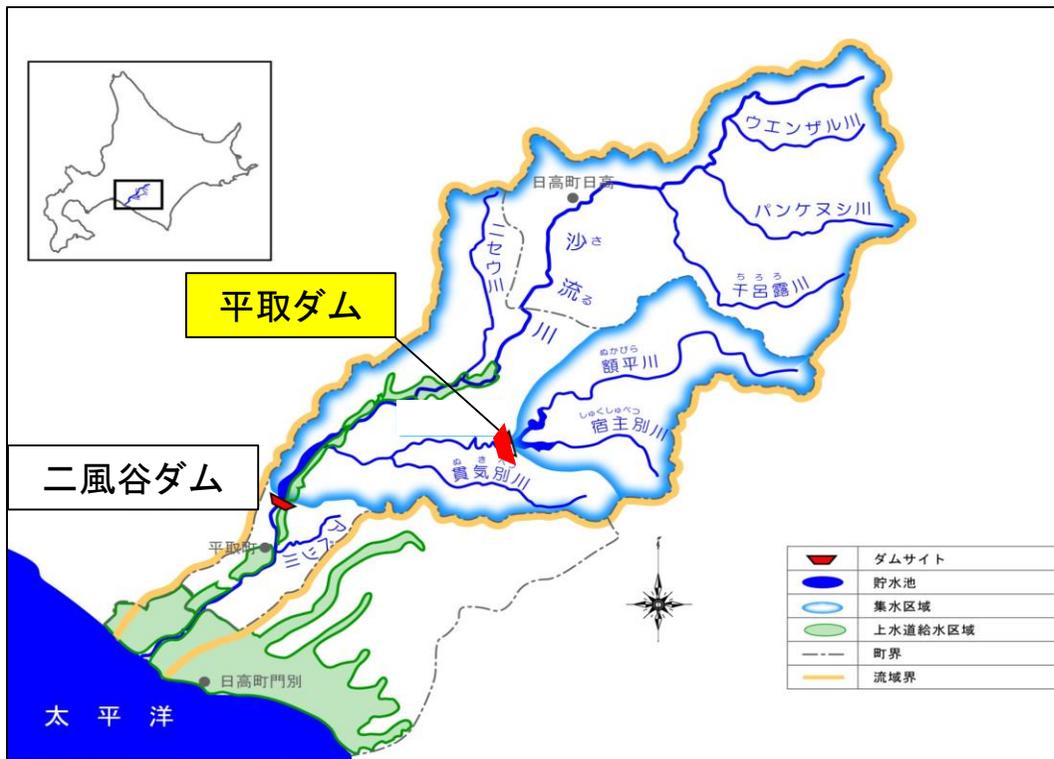
令和2年10月19日

室蘭開発建設部 沙流川ダム建設事業所

沙流川総合開発事業の概要

沙流川総合開発事業は、沙流川に二風谷ダム、支川の額平川に平取ダムの2つの多目的ダムを建設する事業で、「洪水調節」「流水の正常な機能の維持」「水道用水の補給」「発電」を目的としています。

沙流川水系流域図



○2つのダムの目的



①洪水調節

二風谷ダムと平取ダムの2ダムにより、前線や台風などで大雨が降った時に、沙流川及び額平川から流れ込む水を貯めて川の増水を緩和し、ダム下流域の洪水被害軽減を図ります。



②流水の正常な機能の維持

ダムに貯めた水を下流に流すことにより、ダム下流の河川環境の保全や既得用水等流水の正常な機能の維持を図ります。



③水道用水の供給

平取町、日高町門別地区で必要となる水道用水を安定して供給し、地域の方々の暮らしを支えます。



④発電

二風谷ダムの放流水を利用して、ほくでんエコエナジー(株)の二風谷発電所において水力発電を行います。この発電量は、日高町門別地区全世帯を賅える能力を有しており、純国産のクリーンエネルギーを供給します。

沙流川総合開発事業の主な経緯

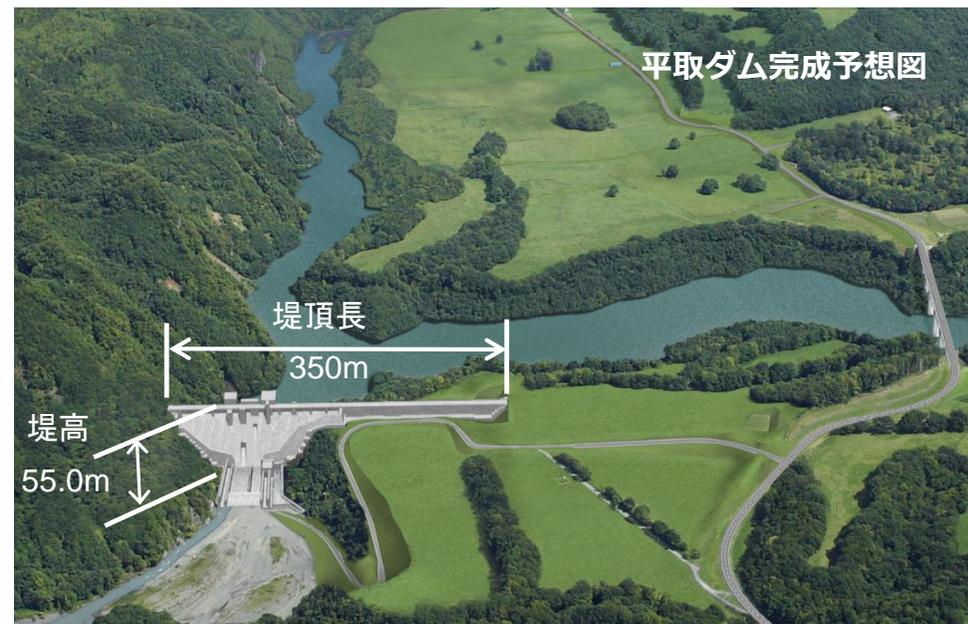
昭和48年 4月	沙流川総合開発事業の実施計画調査に着手
昭和57年 4月	沙流川総合開発事業として建設事業に着手
昭和59年 3月	「沙流川総合開発事業に伴う損失補償基準」の妥結調印
平成10年 3月	二風谷ダム完成
平成19年12月	平取ダム付替道路工事着工
平成25年 8月	平取ダム工事用道路工事着工
平成27年 1月	平取ダム堤体建設工事の契約締結
9月	ダム堤体コンクリート打設開始
令和3年度	平取ダム試験湛水予定

二風谷ダムと平取ダムの概要

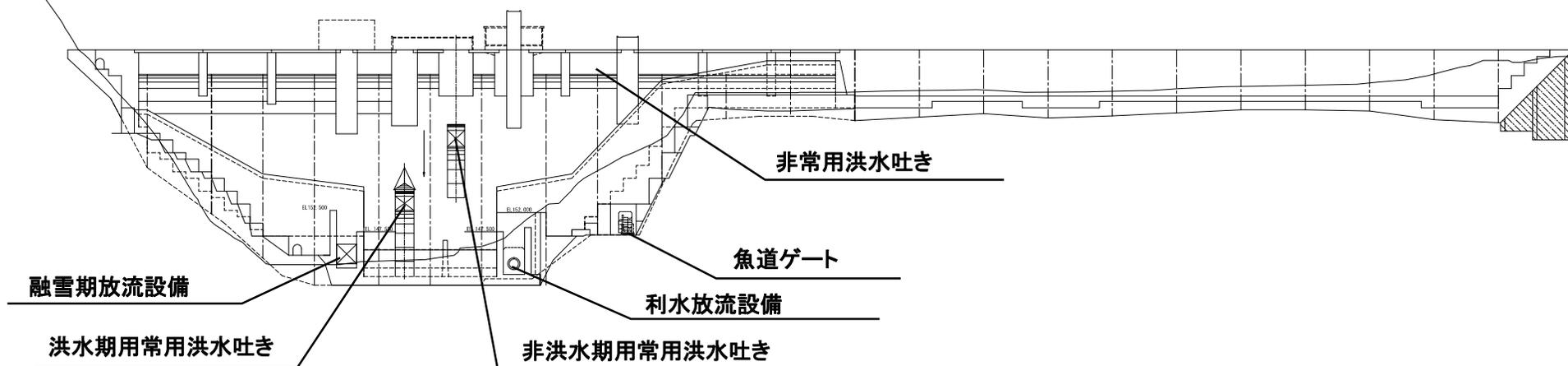
	二風谷ダム	平取ダム
場所	沙流郡平取町字二風谷 沙流川水系沙流川 河口から21.4km	沙流郡平取町字芽生 沙流川水系額平川 沙流川合流点から22.4km
目的	(F)洪水調節 (N)流水の正常な維持 (W)水道用水の供給 (P)発電	(F)洪水調節 (N)流水の正常な維持 (W)水道用水の供給
形式	重力式コンクリートダム(G)	重力式コンクリートダム(G)
堤高	32.0m	55.0m
堤頂長	550m	350m
集水面積	1,215km ²	234km ²
湛水面積 _(HWL)	4.3km ²	3.1km ²
総貯水容量	31,500千m ³	45,800千m ³

平取ダム of 諸元

- 場所
北海道沙流郡平取町字芽生
(沙流川水系額平川)
- 目的
洪水調節
流水の正常な機能の維持
水道用水の供給(平取町、日高町)
- 諸元
型式 重力式コンクリートダム
堤高 55.0m
堤頂長 350m
総貯水容量 45,800千m³



ダム下流面図



平取ダムの概要

平取ダム貯水池平面図



平取ダム
(建設中)

道道芽生貫気別線

芽生地区

宿主別橋

宿主別川

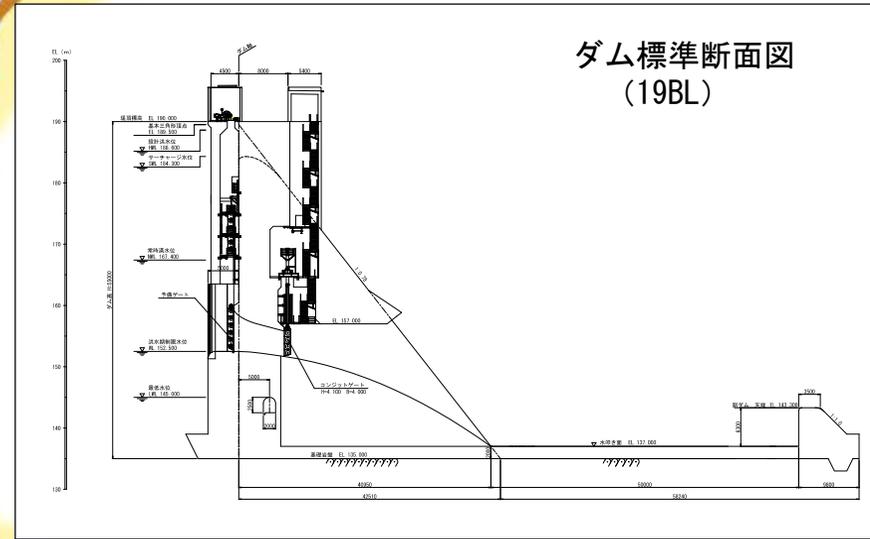
町道芽生すずらん線

豊稔地区

道道宿志別振内停車場線

豊稔橋

ダム標準断面図
(19BL)



凡 例	
	洪水貯留準備水位(洪水期制限水位):標高152.5m
	平常時最高貯水位(常時満水位) :標高167.4m
	洪水時最高水位(サーチャージ水位) :標高184.3m
	既設道路
	付替道路
	平取ダム(建設中)

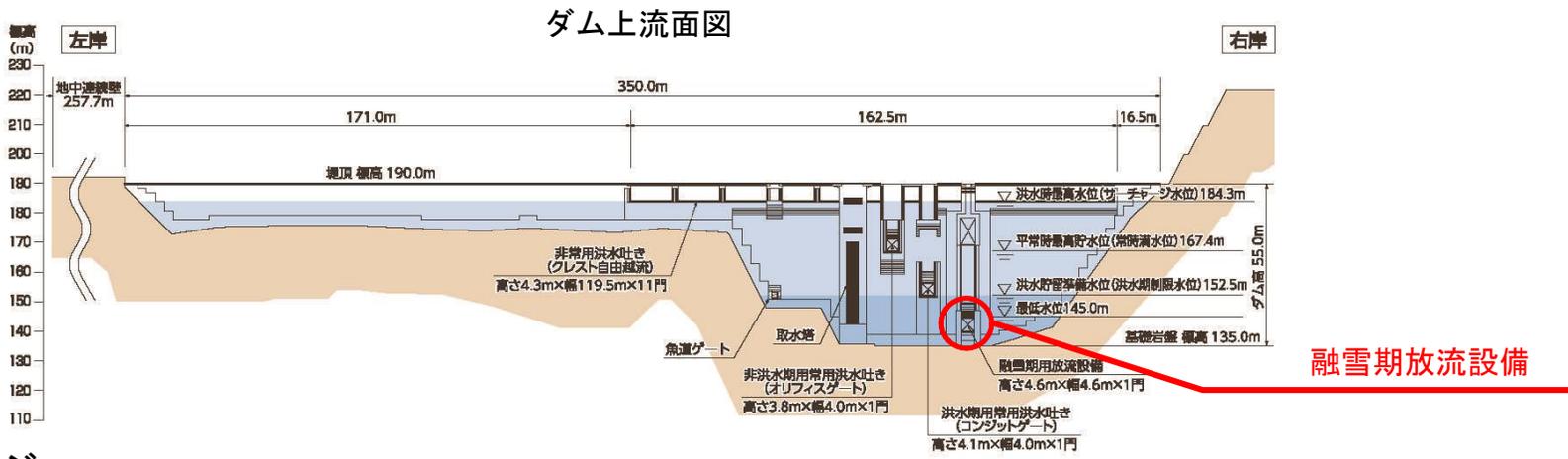


令和2年7月16日撮影

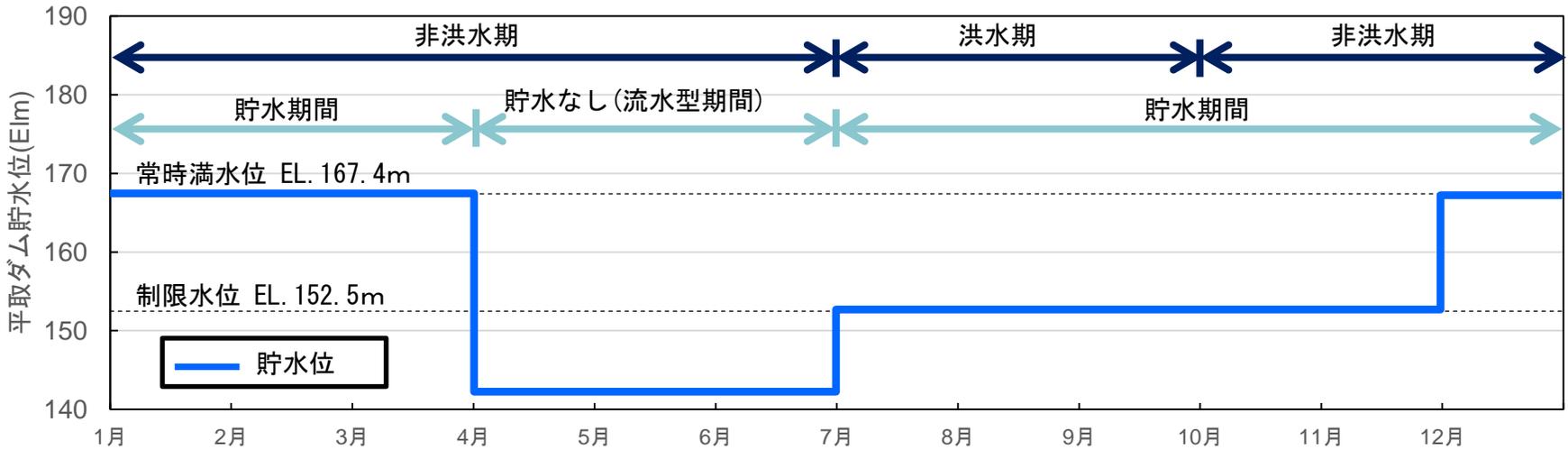
平取ダムでの堆砂対策

平取ダムでは融雪期の豊富な流況を生かし、ダム最下部に設ける放流設備を利用して、4月～6月の期間、流水型運用を行い堆砂量の抑制を図ります。

融雪期放流設備



貯水位運用イメージ



平取ダムでは「平取ダム環境調査検討委員会」を設置し、環境保全への取り組みを進めています。

■平取ダム環境調査検討委員会

- ・平成15年4月以降、これまでに13回開催。

委員名簿(五十音順、敬称略)

令和2年10月時点

氏名	所属
庵谷 晃	微細藻類研究室 代表
越塚 宗孝	一般社団法人 千歳観光連盟 副会長
齊藤 慶輔	(株)猛禽類医学研究所 代表
坂本 与市	NPO法人北海道田園生態系保全機構 顧問
高橋 誼	日高の森と海を語る会 事務局長
中井 和子	中井景観デザイン研究室 代表
中林 成広	北海道両棲爬虫類研究所 所長
藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
眞山 紘	公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社 技術顧問
渡辺 義公	中央大学研究開発機構 教授



第13回平取ダム環境調査検討委員会 (平成30年12月20日開催)

■環境保全への取り組み例

ハヤブサつがいの繁殖に対する環境保全措置

繁殖への影響の最小化を図るため、工事工程を検討するとともに、繁殖ステージを踏まえた馴化(※)の考え方を取り入れた工事中モニタリングを行いながら工事を実施しています。



※馴化(じゅんか)とは

生物が環境の変化に数日から数週間かけて適応していくこと。(「大辞林」)

平取ダムでは、人や車両の出入りに対するつがいの反応を伺いつつ、緩やかに工事の規模や頻度等を変化させて慣らしていく方法を採用しています。



馴化のため、作業終了後に残置した建設機械

サクラマスに対する環境保全措置

ダム上下流への工事中の移動ルートを確認するため、仮排水路内に魚の休息場となるコンクリート製の水制を設置。



サクラマス



仮排水路(通水前)
(下流から上流を望む)



潜孔

設置した水制

アイヌ文化保全への取り組み

平取ダムでは「平取ダム地域文化保全対策検討会」を設置し、アイヌ文化保全への取り組みを進めています。

■ 平取ダム地域文化保全対策検討会

・平成18年8月以降、これまでに20回開催。

委員名簿(敬称略)

令和2年10月時点

氏名	所属
宇南山 嘉宜	平取アイヌ協会副会長
萱野 志朗	平取アイヌ協会副会長
遠藤 桂一	平取町長
川奈野 栄子	平取アイヌ協会副会長
木幡 サチ子	平取アイヌ協会
木村 英彦	平取アイヌ協会会長
木村 二三夫	平取アイヌ協会副会長
庄野 剛	平取町教育委員会教育長
高山 修	平取町議会総務文教常任委員会委員長
千葉 良則	平取町議会議長
常本 照樹	札幌大学地域共創学群教授
山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授



第20回平取ダム地域文化保全対策検討会（平成31年3月18日開催）

■ アイヌ文化保全への取り組み例



祈りの場の整備



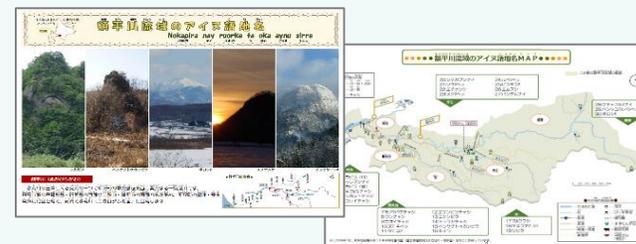
説明看板の設置



工事箇所の有用植物調査と移植



アイヌ語地名
データベースの作成

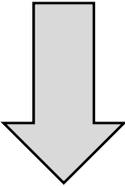
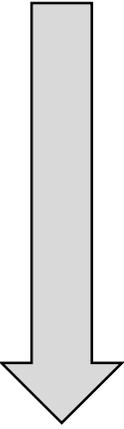
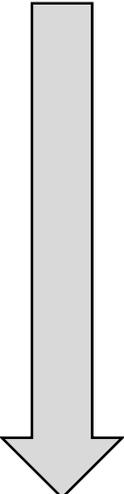


アイヌ語地名の継承（パンフレットの作成）

平取ダムモニタリング部会について

○フォローアップ・モニタリング全体スケジュール

- ダム等の管理に係るフォローアップ制度に基づき、試験湛水の前の年度である令和2年度よりモニタリング調査を開始する。
- モニタリング調査計画の作成、調査結果の分析・評価について意見を聴くため、令和2年度よりモニタリング部会を設置する。

年度	建設事業	管理	試験湛水	フォローアップ制度	
				モニタリング調査	フォローアップ調査
～令和2年度			○		
令和3年度					
令和4年度					
令和5年度					
令和6年度					
令和7年度					
令和8年度					
令和9年度～					